

第五回SF句会清記

◎正選を四句、特選を一句お選びください。

- 一、清潔な白にゴツホの鶏頭（あか）を添え
- 二、冬椿触る指から解けてゆく
- 三、うしろから鮭鯖びそうなくらい赤
- 四、花見客樹上生活三年目
- 五、生活が世界にありて月に人
- 六、年下の姉に麦茶のおかわりを
- 七、燃え上がるフローライトの盆の月
- 八、でんりゆうだ！ 痩せ犬が詩を吐き終えた
- 九、高度四〇万キロどこ見ても名月
- 十、肌寒し方程式を解いて雨
- 十一、わが意識一つなのかと食ふクラゲ
- 十二、銀杏にも落ちる道筋ありて指
- 十三、地下鉄から生還して流れ星
- 十四、イメチェンし頭蓋の穴から旱星
- 十五、ひぐらしがなくなき帰るなくなきの声
- 十六、鐵の中ぐらりとぐらりと灼けし男（ひと）
- 十七、秋扇人間のまま二十年
- 十八、溶媒に踊る気泡や冬日向
- 十九、きみと逢うベテルギウスの墜ちゆく日
- 二十、こたつむり生態日誌一〇〇年目
- 二十一、なる早でやるさマルタで針供養
- 二十二、目蓋（まなぶた）を磨り潰してみる開戦日
- 二十三、あいうえお架空の蝉がとまった木
- 二十四、ぼくはいちじくあおいいちじく薬缶鳴る